

Pain is inevitable Suffering is optional

15 治承・寿永の乱

保元の乱から平治の乱

1156 * **保元の乱** 勃発。

天皇・院	平氏	①日宋貿易を開始 ←	①瀬戸内海の家賊平定
鳥羽	忠盛		②1156* 保元の乱 ▶ 後白河法皇 VS 崇徳上皇 藤原忠通 VS 藤原頼長 平清盛 VS 平忠正 源義朝 VS 源為義 黒幕 藤原信西
後白河	清盛	①平氏政権 ▶平清盛 → 太政大臣 に 後白河院政停止 1179 独裁政権樹立	③1159* 平治の乱

義朝下野国二荒山神社造営の功で下野守重任。清盛は播磨守で昇殿許される。

平氏政権の成立

①成立過程



ア 1159* **平治の乱** → **平清盛** 鎮圧
院の近臣：藤原信西 VS 院の近臣：藤原信頼
乱後、政治の実権握るが源義朝に討たれる。清盛反撃し、信頼・源義朝倒す。



平氏が朝廷で権勢を強めると、次第に後白河院やその近臣間で反平氏の動き強まる。清盛は、後白河院を幽閉し院政停止

して反対派を一掃、安徳天皇を擁立。院政は残る。

②平氏政権の性格とはどんなもの！

ア 朝廷で実権を掌握

(a) **一門で高位高官** を占める 安芸守・播磨守

(b) **天皇との外戚関係** を確保… **安徳天皇** 即位 (娘徳子の子)

イ 武家政権…畿内・西国を中心に各地の武士を家人に組織

ウ 権門の一つ

(a)平清盛…太政大臣 → **天皇家** ・ **摂関家に準じる家格** を形成した

(b) **知行国** ・ **荘園** をもつ

エ 貿易

日宋 貿易に積極的に関与 (摂津 → **大輪田泊** を修築 → 宋船を畿内に)

ファーストサムライ

対中貿易を通じて宋銭をどんどん日本国内に流入させ、農業と物々交換に立脚した古代

経済を一新し、かつ荘園制に立脚した既存の貴族から実権を奪い取っていく。この科挙以外の貨幣経済の部分で、宋朝中国のしくみを日本に導入しようとした革新勢力が、後白河法皇と平清盛の協力タッグ、西日本中心の平氏政権だ。

『中国化する日本』奥那覇潤 45頁

1172 清盛の娘平徳子、**高倉** 天皇の中宮となる。

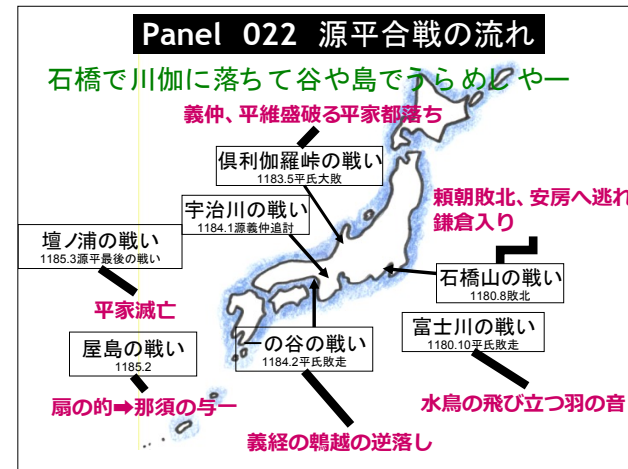
平氏政権の全盛期 (中心地となったのは京都・**六波羅**)

清盛は一族を公領の現地支配者である地頭に任命し西国一帯を家人とすることに成功

史料研究 平氏の繁栄 (平家物語)

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことはりをあらはす。おごれる人も久しからず、只春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、… **六波羅** 殿 {=**清盛**} の御一家の君達といひてしかば、花族 {かしよく} も栄耀 {えいよう} も面をむかへ肩をならぶる人なし。されば**入道相国** {=**清盛**} のこじうと、平大納言**時忠** 卿ののたまひけるは、「**此一門にあらざらむ人は皆人非人なるべし**」とぞのたまひける。…

吾身の栄花を極るのみならず、一門共に繁昌して嫡子重盛、内大臣の左大将…惣じて一門の公卿十六人、殿上人卅余人、諸国の受領、衛府、諸司、都合六十余人なり。世には又人なくぞみえられける。…日本秋津嶋 {あきつしま} は纒 {わづか} に **六十六** 箇国、平家知行の国 **卅** 余箇国、既に半国にこえたり。其外庄園田畠いくらといふ数を知らず。



治承・寿永の乱

院	平氏	政治	戦乱・その他
後白河	清盛	②後白河法皇を鳥羽殿に幽閉 ③ 安徳天皇 即位	④1177 鹿ヶ谷の陰謀 院の近臣による平氏打倒計画 藤原成親・僧俊寛

<p>④1180 福原京 遷都 ← 年内に京都戻る 平清盛の死去 1181</p> <p>後白河院が京都に後鳥羽天皇を擁立 1183 源頼朝と提携→義仲滅亡 ⑤侍所設置 →初代別当 (御家人：和田義盛) になる。</p>	<p>⑤1180 以仁王 の令旨 以仁王・源頼政 挙兵敗北 ⑥平重衡→南都焼打ち ⑦1183 源義仲入京 ⑧伊豆で頼朝挙兵 ⑨頼朝 × 石橋山 の戦いで惨敗 ⑩ × 富士川 の戦いで勝利、鎌倉に戻る ⑪壇ノ浦合戦で平氏滅亡 1185</p>
--	---

平清盛、摂津国に **大輪田泊** 修築を行う。この他安芸国に **音戸の瀬戸** を開いた。

鎌倉幕府の成立

①成立過程

ア 反乱政権の樹立	鎌倉で 侍所 設置 1180 初代別当 → 和田義盛	
-----------	---	--

源頼朝は、参集した東国武士たちの武力により関東諸国の国衙を制圧し、**国司や荘園領主をさしおいて直接、公領・荘園に地頭を設置した**。地頭に任ずることにより、**敵方の武士(謀反人)の所領を軍事占領して支配することを認める** (**新恩給与**) とともに、**父祖伝来の所領を保障した** (**本領安堵**) ののである。

イ **東国支配権** を朝廷から承認される 1183…後白河院と連携→安徳天皇は西国へ

後白河院が後鳥羽天皇を擁立すると、頼朝はすぐさま朝廷の使う年号を採用し、その正当性を認めた。それに対して朝廷は、**寿永二年十月宣旨** を発し、東海・東山道の国衙領・荘園を元の領主に返還させ、従わない者がいれば頼朝に鎮圧させると宣言した。これによって頼朝は **東国支配権を朝廷から承認** され、武力行使によって確保した既成事実を朝廷下の支配秩序のなかに組み込むことに成功した。さらに頼朝は、後白河院が平氏から没収した荘園 (**平家没官領**) を与えられた。

ウ **守護・地頭** の設置の承認 1185…源義経追討を

1184.1 義仲、征夷大將軍に任命されるが山城国([7 **宇治川**]の戦い)で源 **範頼** (頼朝の弟)・義経が義仲を破る。この勢いで、源範頼・義経は福原の平家を攻める。

1184.2 × ([8 **一ノ谷**]の戦い)

ここで、義経が「鴨越の逆(坂)落とし」※を敢行!…義経率いる、源氏の軍勢の一部が、福原の平家軍の背後の急峻な坂道を馬で駆け下り、急襲する奇襲。大河ドラマでの一番の見せ所。

1184.8 **後白河法皇**、義経を判官に任ず。

→頼朝は義経が自分の承諾無しに任官したことに激怒、平家追討の指揮官の任を解く。兄

弟不和の初め。

1184.10 頼朝、鎌倉に財政担当の **公文書** (のち 1191 年に **政所** と改称)、訴訟・裁判担当の **問注所** を設置する。

1185.1 範頼の戦果芳しくなく頼朝はやむなく義経を呼び戻す。

【源平の戦い年表ワーク (3)】

1185.2 × 義経が [1 **屋島**] の戦いで平家を破る。このとき、梶原景時と「逆櫓(さかろ)」について論争する (→【4】)

1185.2 × 義経が [2 **壇ノ浦**] の戦いで、平家を滅亡させる。安徳天皇等が入水(じゅすい)。幼少の安徳天皇、西海に入水する。三種の神器のうち剣だけ発見されず。

㊦ 義経のルール違反

壇ノ浦で義経は非戦闘員への攻撃を命じている。海戦での船の漕ぎ手は非戦闘員であって、武装もしていなかった。形勢不利と見た義経は、この禁じ手を部下に命じたのである。平家の水軍は漕ぎ手を失い、波に翻弄されて源氏の船団に包囲されてしまう。漕ぎ手への攻撃が平家の他の非戦闘員たちに与えた心理的影響は計り知れない。文明的戦争のルールさえ知らない野蛮人たち。生きて囚われの身になったらどんな陵辱を受けるやもしれない。時子をはじめとして多くの女性が波間に沈んでいったのも、当然であろう。壇ノ浦大虐殺かもしれない。

『義経の東アジア』小島毅 71 頁

1185.5 義経、頼朝により鎌倉入りを禁じられる。

鎌倉の腰越で頼朝の怒りを解こうと愁訴(その書状を腰越状という)しかし、受け入れられず京に戻る)鎌倉万福寺がその場所である。

1185.10 義経、後白河法皇より頼朝追討の宣司を受け、都を落ちる。

1185.11 北条時政(頼朝方の大将)、大軍を率いて上洛、法皇は頼朝追討の宣旨を義経追討の宣旨に切り替える。

その無定見に怒る頼朝は法皇を「日本国第一の大天狗」と評する。

頼朝、義経の行方探索を名目に、諸国に **守護・地頭** の設置を要求、勅許が出される。これにより頼朝は **全国の支配権** を獲得する。

1186 源行家が鎌倉方に殺される。

1187.2 義経、奥州平泉の **藤原秀衡** を頼る。秀衡は頼朝に対抗し義経を保護する。秀衡没し、平泉に対する鎌倉の圧力強まる。

1189.4 × **藤原泰衡**、頼朝の圧迫に耐えきれず義経を討つ。

1189.9 頼朝、義経逃亡をかくまったことを理由に泰衡を滅ぼす。頼朝は奥州を平定し、**奥州総奉行** を置く。→奥州藤原氏滅亡

奥州藤原氏は清衡→基衡→秀衡→泰衡と4代続いたが滅亡する。

1190 頼朝、後白河法皇より **権大納言**・**右近衛大将** に任命されるがすぐに辞退。

1191 **栄西**、禅問答の **公案** を重んじる **臨濟宗** を広める。

1192 後白河没。頼朝 親幕派公卿 **九条兼実** の協力を得て **征夷大將軍** に任命される。これより明治維新までの約 680 年間の武家政治が始まる。